

## 第2回「海の京都実践会議」結果概要

1 日時 平成25年4月13日(土) 15時30分～17時

2 場所 舞鶴市西駅交流センター 3階 会議室2

### 3 主な内容(ご提案・意見交換)

- 久美浜地域の活性化計画について、豪商稲葉本家を中心にNPO法人わくわくする久美浜をつくる会等が活動しているところ。また、小天橋の民宿群は京都府最大。こうした資源等も活用しながら、久美浜マラソンなどスポーツ観光の視点での取組ができないか。
- 歴史回廊については語り部が必要。これまで丹後検定等を通じて語り部の養成をしてきたが、さらに海の京都のソフトのシンボルとして位置づけるため、全国語り部大会が開催できないか。
- 伊根町の若者を中心に町並み整備の提案書を作成し、画家の方に整備後のイメージの絵画も描いてもらった。町並みについては、電線を地中化したり、石畳だと高齢者の方が歩きにくいので、土色のカラー舗装にすること等を考えている。また、海上についても、昔はもっと船が泊まっていたが、今はほとんどないので、和船による海上遊覧等を実施したいと考えている。

(京都府)

- ・ 伊根については、ハイエンドを狙えるエリアとしていく必要がある。
- ・ 語り部についてはデザインに変えて、マーケット訴求力のあるものにしていくことが必要。
- 久美浜の民宿のキャパはどれくらいか。スポーツ観光に利用する場合、かなりのキャパが必要になる。また、ホテルよりも安く泊まれるところが必要。
- だいたい10部屋まで。季節稼働のところがよい。スポーツ観光はよいと思うが、体育施設が必要なもの難しいのでマラソンのように施設の不要なものの方がよい。宿泊は分宿であれば対応できる。
- 複数の府県をまたがるような大規模な大会だと、宿泊の規模と学校の校庭がどれくらいあるかというのを把握する必要がある。

(京都府)

- ・ 現在、歴史街道丹後100kmウルトラマラソンやTANTANロングライド等のスポーツイベントは開催しているところ。マリッジジャーについても力を入れていく。
- 高齢者の方々がまちづくりに頑張っておられる。「豪商稲葉本家」を中核とした区域においては「久美浜一区まちづくり協定」を締結し、伝統的な街なみの保全に向けた取り組みを行っている。若者が入りやすい店舗があればもっと面白くなるのではないか。

(京都府)

- ・ 久美浜は旅館等が点在しているので、交通機関と食等でうまく結びつけていけないといけない。
- ・ 交通については、天橋立の文珠から府中まで、さらに伊根町までや、伊根町内などを、統一デザインの自転車を走らせることができないか。
- 現在、伊根には5台だけだが電動自転車がある。

(京都府)

- ・ 文珠と府中を結ぶ交通の場合、往路は自転車で行き、帰りは船で帰るということも考えられる。海の京都デザインに統一して、乗り捨て自由とする仕組みを構築したい。
- 他地域の交通の様々な事例をお手元にお配りしている。カートはオープンなため気軽に声を掛けやすいのがよい。セグウェイもよい。多様な乗り物を取り入れることでより行き来しやすくなる。富山の事例(シクロシティ富山)は経費がかかるが、自転車を一から総取り替えしなくても、デザインをどこか統一するだけで十分できる。

(京都府)

- ・ 久美浜湾や阿蘇海は湖に近い。レマン湖のように、観光地としてもっと遊びに活用できるのではないか。ちゃんとお金がまわる形で投資も呼びかける必要がある。
- ・ 舞鶴の軍艦を見せるコンテンツは素晴らしい。コンテンツとして有力である。
- 赤レンガパークを舞鶴観光ブランド戦略のシンボルとして、戦略的にこの場所を情報発信して、そこに集め、そこから、市内の他の関連イメージに誘導することを考えている。本物のかまぼこ板を使った乗り放題チケット「舞鶴かまぼこ手形」、1000円を買えば、自動車でも来られても駐車場が無料に

なったり、ループバス、路線バス等に乗り放題になるうえ、各観光施設の入場料が半額になったり、護衛艦を目の前に見れる遊覧船などの乗船料も半額になったりする仕組みをつくっている。

いずれも観光客等をすべて赤れんがパークに集めるようになっている。KTRもそうした制度の中に組み入れさせていただいたり、舞鶴以外の各市町村も域内でかまぼこ手形のような仕組みを作って、つないでいけば、エリアの交通連携もできていくと思う。

- 天橋立のまちづくりにおいて、「聖地としての品格と情緒ある風景の再生」が重要なテーマになる。そのテーマを具象化したものとして雪舟の国宝「天橋立図」は強力なツールになりえろと考えている。
- 天橋立は成相寺、智恩寺、元伊勢籠神社の3つを結ぶ参道的なもの。国宝「天橋立図」（雪舟）に描かれており、国宝の絵の中を歩けるのはここだけ。そういう意味合いを活かして居心地のよい空間をつくりたい。移動手段も大切。今は普通の自転車が多いが、お洒落な移動手段が必要。
- 丹後郷土資料館に人が入らないのはアクセスの悪さと場所。しかし、丹後国分寺跡であり、昔は一番美しい場所だったはず。外国人が日本文化を体験できる場所として活用できないか。また、人が訪れやすいよう、籠神社の隣に分室をつくって展示ができないか。他の地域にもよくあるタイプの郷土資料館なので、もっとソフトを充実させてもよいのではないか。開放していろいろなことに使えるようにしないといけない。

(京都府)

- ・ 丹後郷土資料館は景観が美しいので、例えば、民間資本でレストラン等を整備して、開放することなどができないかと考えている。

- 国宝の絵「天橋立図」が地元になのが残念である。
- 学芸員さんに説明をしていただいたが、古墳から出土した鉄器の量等の物証から見ても関東と違って、このエリアが日本を代表する「日本の顔」（観光庁の提唱するブランド化）になると感じた。すごいロマンであり、それを観光に繋げたい。
- シニア層は古墳等に興味がおり、マニアックなものを求めている。個性をクローズアップしていけばよいのではないか。

(京都府)

- ・ 定義づけ、デザインをしっかりとしていけば、もっとちゃんと伝わるのではないか。

- 丹波は古くは「たには（太邇波・田庭）」。その「たには」の1つが福知山。山があって川があり、川が海につながっていく。丹後だけではなく、福知山大江山からの自然を含めて物語（ストーリー）を作っていくことが必要。観光というのは1か所1か所それぞれが旗を挙げているだけでなく、広域の中でのいろいろな楽しみ方をしていただけるように考えないといけない。
- 箱根の観光も課題を抱えている。箱根で生活している人と訪れる観光客との交流が意外とない。箱根はディズニーランドに対して自然のテーマパークだといつも言っている。その中にパビリオンとしてホテル、観光施設や美術館がありそれを登山鉄道、ケーブルカーロープウェイや船が結んでいる。そこに住んでいる人働いている人はキャストの役割で、テーマパーク全体で呼び込んでいるという考えが大切だ。この府北部地域についてもゾーンとして大きなストーリーを置かないと、ポイントポイントばかりの話になってしまう。大量のパンフレット等の印刷物をまく時代は終わった。情景を思い浮かべることができるストーリーが重要。テーマとグランドデザイン、ストーリー作りを忘れないようにする必要がある。単発のイベントによる観光客誘致には限界がある。
- 一方行政には補助策を検討してほしい、例えば、伊根の場合、町並みを残すことに対する税制の優遇など、古い建築物や町並みを保存、修復するためのコストが大きく、相続する際にもまた負担が出る。補助金というよりも、税制優遇によって、代替わりがあっても町並みが維持、保存されるようにしてほしい。
- 飛騨では毎年毎年補助をするのは大変だが、固定資産税だけは減免しようということで、制度を設けている。
- 昨日東舞鶴に行ったが、移動するのに公共交通が不便であった。タクシーは高いので、軽自動車のレンタカーが3~4千円程度で借りられると移動がしやすい。
- 赤れんがの施設が、我々が見られるもの以外にも多く存在するので、見られるようにならないか。
- さきほどの舞鶴かまぼこ手形のパンフをご覧になったらわかるが、ループバスも1日6便を12便に増便して、今はバスも30分に1本は走るようになっているので、それを利用していただければ、市内の主要な観光スポットはまわられるようになっているはずである。（そのことがまだ知られていない

のかもしれないが)

- 箱根をテーマパークとする考えでゆけば、この海の京都も同様に考えて、KTRそのもののコースも舞鶴、宮津、京丹後、綾部、福知山を周遊する環状線のようなコースにすることを考えて、各市町村の施設をパビリオンと考えていけばいいのではないか。
- 東京の「はとバス」が人気。どこかを拠点にして、「はとバス」のようなコースをつくって、ガイドが説明をし、食もセットにするような取組ができないか。
- 海の京都パスポートはまだエリアの紹介にとどまっている。そのエリアを横につなぐストーリーが必要。それがあると、どう過ごそうかということが連想できる。動くことがファッションになる。
- 昔この地域が栄えていたのは、それだけ流通や交通が発達していたから。
- タクシーが昼は余っているので、もっと活用してはどうか。

(京都府)

- ・ 天橋立は閉鎖空間で管理しやすいので、セグウェイの導入なども検討したい。
- デュアル・モード・ビークルなども導入できれば便利だと思う。
- レンタサイクルの整備については、企業に協賛してもらい、レトロ調の雰囲気を壊さないような広告を出すという方法もある。

(京都府)

- ・ まずは、整理・整頓・掃除で、なるべく不要なものは取り除くところからやっていきたい。
- 大掃除を毎日1回、毎週1回などちゃんとできるまちであれば観光地になれる。個人の意識が変わらなるとまちは変わらない。電車は企業の持ちものなのでやりやすいが、まち中は看板1つを取り外してもらっただけで大変である。1個人の意識を変えるのは難しいが、それがまちづくりのポイント。整理・整頓は非常に難しい。
- 地図も美しくないといけない。色を使いすぎては美しくない。どのような地図をつくるかということから考えて取り組むのも大切。
- 役所が素晴らしい箒やバケツを用意して、それで住民が整理・整頓・掃除を実践していけば、ほとんどの地域は変わることができる。
- これまでは旅行者のためのツーリズム観光だったが、これからは、歩いてまわる観光に変えていかないといけない。

(京都府)

- ・ 天橋立はこれまでツーリズム型観光でやってきたまち。観光にあまり取り組んできていない福知山や綾部の方がやりやすいかもしれない。
- タクシーを美しくすることによりタクシーの運転手も変わる。電車も手のかかる車両をつくった方が、文句を言う人もいるが、愛着がわき意識が変わる。電気の色を揃えるのはお金もかからない。景色と美味しいもの、人がセットにならないとヒットしない。昔のままでは駄目で、今風にもっと上品にもっと進化させていかないといけない。
- まちづくりはもっとも難しい仕事。昔は殿様がやっていたが、今は住民が行うので、住民の意識が高くないといけない。目先の利益を追いかけては駄目だし、変に手を入れてはいけない。
- 今後の進め方であるが、交通、食、情報、景観などテーマ別の部隊をつくってはどうか。